

平成 1 8 年 1 1 月 2 9 日 (水) 北勢版
「神戸高定時制生徒会病院に福祉機器贈る」

神戸高定時制生徒会 病院に福祉機器贈る

鈴鹿「急患のお礼に」

鈴鹿市神戸の神戸高校
定時制生徒会は二十七日
夜、同市安塚町の鈴鹿中
央総合病院に手押し車三
台とつえ一本を寄贈した
写真。

同校定時制には八十九
人が在籍し、約八割の生
徒が働きながら学んでい
る。十五、十六の両日に



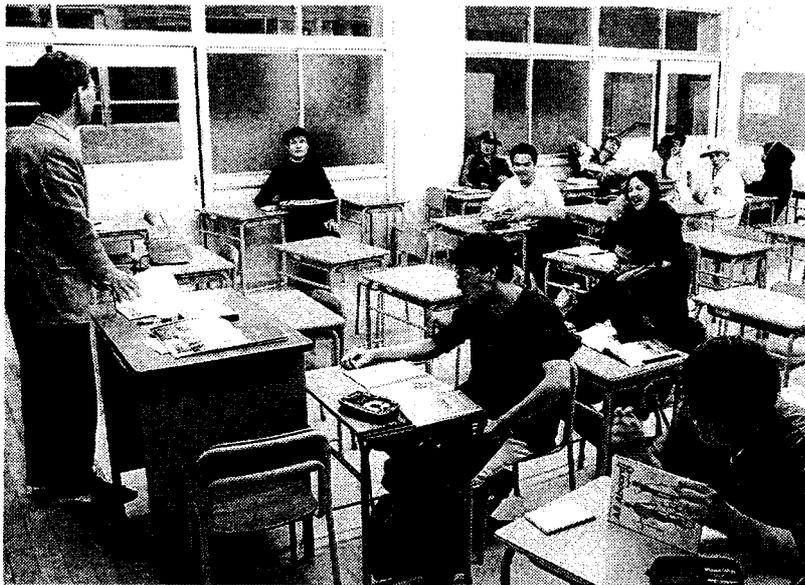
文化祭を開き、「病院に
福祉機器を贈ろう」と募
金を呼び掛けた。募金と
生徒会の寄付で約三万円

が集まり、夜間、学校で
けがをした場合に世話に
なっているお礼にと、同
病院に福祉機器を贈っ
た。

生徒会長の垣内大さん
（三）は「総合的な学習で
目や耳の不自由な人から
話を聞いた。何かお役に
立てればと、手押し車な
どを病院で使ってもらっ
ことにした」と話した。

（野呂真聡）

神戸高定時制 外国人が3分の1



日本人と外国人が机を並べる授業風景＝鈴鹿市の神戸高校で

通訳配し特別授業

県立高校の定時制で学ぶ外国人の若者が、急増している。仕事を求めて南米や東南アジアから県内やってきた人々の定住が進み、その子どもたちが中学校を卒業してからの

「学びの場」になっているためだ。定時制の生徒の三分の一が外国人という神戸高校（鈴鹿市）をのぞいた。
（大島康介）

「先生、キカイ（機械）って何のこと？」

日が暮れた午後六時半ごろ。国語の授業中、ブラジル人の二年生前田リウチ君（も）が教師に尋ねた。中学二年で来日して三年がたつ。日本語の日常会話はほとんど問題ないが、まだ知らない基本単語が出てくる。

神戸高の定時制に在籍する生徒は一年から四年まで計百七人いる。このうち三十六人が、ブラジルやペルー、ネパールなどの外国人。三年前の九人から四倍に増え、県内で最も多くなった。

全日制の入試は難しい

仲間急増 日本語習得に遅れ

県立高校の定時制に通う外国人数 01年度の76人から07年度の134人にほぼ倍増し、生徒全体の6・6%を占める。製造業が好調な県北部の亀山高（亀山市）や北星高（四日市市）の定時制も外国人が2割前後と多い。
外国人特別選考 自国語の学科試験と日本語の作文、面接だけで選抜する。来日3年以内が対象だったが県教育委員会は07年度入学者から、来日6年以内と条件を緩和した。

が、定員割れが続く定時制 雑談を続けている場面も見
なら受験者はほぼ全員が合 掛けた。
格。外国人生徒らの多く 同校は日本語の支援が必
が、昼間は工場などで働き 要な生徒を分けて、教科担
ながら通う。 任とそれを通訳する講師の

他の仲間たちと同様、母 二人の先生を配置した特別
国語で学科試験が受けられ 授業を行っている。通訳の
る外国人特別選考で入学し 講師は昨年度まではスペイ
た前田君は「日本語を覚え ン語の一人だったが、この
て卒業後も日本で働きた 四月からはブラジル人向け
い」と夢を描く。岡本アレ にポルトガル語の講師も加
ックス君（も）のように「電 わった。特別授業で教科を
子工学を勉強したい」と大 担当する非常勤講師も三人
学進学を希望する生徒もい から六人に増やした。

増え続けるこうした生徒 かつと間に合っている状況。
たちの課題は「もっぱら言 もっと多様な言葉や文化の
葉の面」と竹内均教頭。学 生徒が入ってきたらどうな
校でも仲間が多いために母 るのか」と不安は隠せず
国語を話すことが多くな 「小中学校や地域での日本
り、日本語習得が遅くなっ 語学習をもっと機能させる
ている。授業中、母国語で 必要がある」と話している。

夜間定時制を統合へ

神戸と
亀山高

11年度、飯野高に新設

県議会は十四日、総務生活、県土整備企業、教育警察の各常任委員会を開いた。県立高校の再編計画で、神戸高(鈴鹿市)

と亀山高(亀山市)の夜間定時制の生徒募集を二〇一〇年度で打ち切り、代わりに飯野高(鈴鹿市)に一年度、夜間定時制を新設する方針を明らかにした。県教育委員会が教育警察委で示した。

戸高と亀山高だけ。神戸高の入学者は三千人前後でほぼ横ばいだが、亀山高は〇四年度の二十一人から〇七年度には十一人へとほぼ半減した。両校ともブラジルなど外国人の生徒が増え、在籍生徒の二割以上を占めるまでに。統合による効率化とともに、外国人生

徒たちの支援体制を充実させることも必要として両校の間にある飯野高に二つの定時制を統合する形での新設を決めた。神戸と亀山の両定時制に在籍中の生徒は、一一年度以降も卒業まで現在の高校で授業を受けられる。飯野高では二つの定時制の入学者を合わせたのとはほぼ同じ一学年四十人を受け入れる予定。飯野高は神戸高からは約二*だが、亀山高とは約十*離れている。この

日の委員会では、亀山市から通学する生徒に支援を求める意見が県議から出た。県教委の担当者は「地域の方々からも意見を聴いて、支援策を検討していきたい」と述べた。(大島康介)